

千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号

平成29年(2017)6月30日



もうすぐ夏休み

校長 市川 幸男

個別支援級の廊下に色とりどりの折り紙や短冊で飾られたささ竹が置かれていました。「ああ、もう七夕か」と思いながら目をやると、短冊には「野球選手になりたい」「動物を助ける人になりたい」といった子どもたちの夢や目標、「家族元気に暮らしたい」といった、家族へのメッセージ等が書いてありました。どの短冊からも気持ちを込めて書いている子どもたちの様子が伝わり、「みんなの願いがかないますように」と思いながら、つい時間を忘れ、一枚一枚全部を読んでしまいました。

4月からの4ヶ月間、全校遠足・運動会そして日々の授業と、子どもたちはいろいろな学習や行事に一生懸命取り組んでいました。それとともに保護者・地域の皆様には、学校の教育活動に対しご理解・ご協力をいただきありがとうございました。計画された教育活動も大きな事故や怪我もなく、充実した活動を行うことができました。その陰には、学校運営協議会の皆様やPTAの皆様、本の木さんをはじめとするボランティアの皆様、地域の皆様など、多くの皆様の無償のご支援があったことを紙面に添えさせていただきます。

さて、いよいよ今月21日から、子どもたちが待ちに待った夏休みが始まります。始まる前は長いと思っても、いつの間にか知らずに過ぎてしまう38日間、それが夏休みなのではないでしょうか。私も自分の子どもの頃を思い浮かべると、同様の経験で痛い思いをしたことが思い出されます。逆に、自分のしたいことをとことんして、大いなる充実感と満足感を感じたこともあります。夏休みは子どもたちにとって、1年間の中でとても大切な節目になる価値をもっている時期ではないかと思えます。それは夏休み前と後とで、登校してくる子どもたちの、顔つき体つきが全然違っており、心と体が大きく成長したことを伺うことができることから言えます。そのためにも、夏休みが単に「学校に行かなくていい日」ではなく、「〇〇をする日」「〇〇ができる日」にさせていただけるようお子さんと計画していただければと思います。たとえば「自由研究をする日」「一日中勉強する日」「思いっきり遊ぶ日」「家族旅行に行く日」「いなかのおじいちゃん、おばあちゃんに会える日」などいっぱい計画をしてほしいと思います。日頃子ども達も、時間に追われて慌ただしい生活を送っています。だからこそ自分の興味・関心をもったことや目標を立てたことに時間を贅沢に使って、夏休みでしかできない体験をしてほしいと思います。

また、夏休みは、千秀まつりから始まり、地域の盆踊り、サマーキャンプ等、自治会や行政・各団体の方が、子どもたちが楽しく安心して参加できるように、企画・運営を行ってくれています。この機会にお子さんと一緒に地域行事等に参加し、親子の絆を深められてはいかがでしょうか。

休み明けの8月28日には児童全員が元気な姿で「今年の夏休みは〇〇をやったよ。」と目を輝かせて話すことができる夏休みになってくれることを期待しています。